

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 3月20日放送分 規制の変わり目こそチャンス！～産学連携でガードレールの新技術～

3月20日放送分 規制の変わり目こそチャンス！～産学連携でガードレールの新技術～

20日 (TX・TVO・TSC)

21日 (TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

22日 (BSJ)

平成11年、道路の施工基準が改定され、ガードレールには従来以上の耐久力が求められることになった。高知県コンクリート製品協同組合(出資金300万円、組合員数11名)は、この改定を好機と捉え、地元の大学や行政などと共に、新基準を満たす強度を備えたガードレールを開発した。地元の経営資源を活かして、全国に発信できる製品を生み出した同組合の産学官連携活動を紹介する。

規制の変わり目こそチャンス！

～産学連携でガードレールの新技術～

[視聴覚教材No. TV15-51](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



ここは高知県の桂浜。これから新開発のコンクリート製品で全国展開を狙う組合を志垣さんが訪ねる。

こちらが高知県コンクリート製品協同組合の寺崎理事長。新製品はガードレールに関係するものだという。早速、見せてもらうことに。





このガードレールの"基礎"が、組合の新製品「プレガード」。ガードレールへの衝撃を吸収し、乗員の安全を守ることができる。

プレガードを設置した道路。今までは1週間の工期が必要な作業を、1日でほぼ終えることができたという。衝撃吸収性能だけではなく、工期の短縮にも役立っている



「ガードレールの施工基準が変わり、従来の工法が利用できなくなったことをチャンスと捉えたのが開発のきっかけ。」と寺崎理事は語る。

規制の変わり目こそチャンス



「新製品開発に必要なだったものは？」組合の結束と外部専門家の知識が、新製品開発には不可欠であったと組合の理事たちは答えた。

- ・組合員の結束で開発資金を出し合う
- ・外部の専門家などに知恵を借りる





組合の要請に応えてくれた専門家の一人が右城博士。ガードレール基礎を作れば、新しい施工基準が求める耐久力を確保できると提案した。

理論計算により製作した試作品のテストに協力者したのが高知工科大学の島教授。



ガードレールの載荷実験。時速60kmで自動車衝突した時と同じ衝撃を加えてもご覧のとおり。

販売に協力する創友の宮崎社長。プレガードは実施権を販売することで全国各地での生産が可能となる。「公共事業で使う製品は、全国に普及することが必要。」



プレガードの実施権を安価に販売して普及を図る



「日本国内84箇所で、プレガードの生産が



可能。今後は世界に進出したい。」と寺崎
理事長は大きな夢を語った。

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN